NO. 201　10月号

FOREST NEWS

未来を守り木を植える
未来を育てる木を植える

2024年度　指標

①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
②国内において累計５００本の植樹活動
③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
④セミナーを通じて植樹活動の啓発
⑤他団体との連携

NPO法人　地球の緑を守る会　　発行人　高津啓洋
〒121-0072東京都足立区保塚町１－６　Tel:03-6783-4707　Fax:03-6783-5595
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://midori.mond.jp/

ラウンドアバウトが森に変貌　(パリ市)

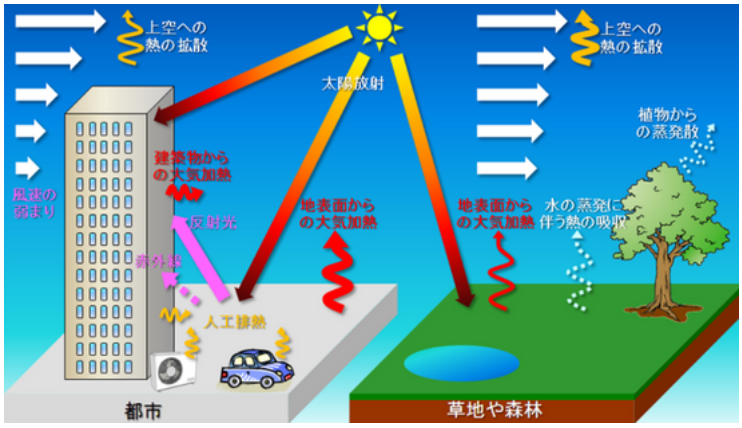
理事長メッセージ

「アーバンフォレスト」と「ヒートアイランド現象」

山地にある樹林に対し、人口密集地にある樹林を「アーバンフォレスト」といいます。その典型例が明治神宮の森です。約100年前に植樹された人工林で、構成樹種が潜在自然植生（その土地本来の樹種、クスノキ、シラカシ、ヤブツバキなど）であるため、自然林に近い森です。仮に首都直下型の大地震が襲ったとき、建物の倒壊や火災からの避難路になります。

明治神宮に匹敵するもう一つの森が浜離宮恩賜庭園のタブノキ林です。約400年前、徳川家の将軍の御狩場であり、また別荘地だった場所で、近代になって皇室の御料地、そしてその後東京都に下賜されました。東京湾岸の潜在自然植生の主木がタブノキであるため、当時のタブノキ林がそのまま残って今のアーバンフォレストになったわけです。

都民に開放されているので樹齢400年のタブノキの大木を見ることができます。アスファルトやコンクリートで覆われた都市部は、日光で熱せられたビルや道路からの反射熱、自動車やエアコン室外機からの排気熱で局地的な気温上昇を招きます。これを「ヒートアイランド現象」といいます。したがって、どんな小規模な樹林でも都市部をヒートアップさせない効果的な手段になるわけです。



潜在自然植生樹木のどんぐりを拾いにいこう

どんぐりを拾う季節がやってきました。植樹の第一歩はどんぐり拾いから始まります。どんぐりを拾って苗木を育てることで、樹木の知識を深めることができます。そして、身近な潜在自然植生の環境を確認することができ、植樹をしたいという心を育みます。自然と共に生きる意識を高めていきましょう。

アラカシ（粗樫）

アラカシは葉や枝振りが粗っぽいことから「粗樫」という和名が付けられました。葉の先端部には粗い鋸歯があり、葉裏はロウ質で白っぽい色をしています。アラカシの材は堅く丈夫で、農具の柄や木刀、天秤棒、炭、薪などに利用されてきました。また、防風や防火のための屋敷林や生け垣としても利用されています。

アラガシ

スダジイ（すだ椎）

スダジイの寿命は約300年と言われ、椎の木は水分を多く含むため、庭園や神社に防火のために植えられてきました。樹皮には縦の割れ目が特徴で、5〜6月には黄色い香りの強い花を咲かせます。

スダジイ

シラカシ（白樫）

シラカシは、高さ20メートル以上に成長します。葉は光沢があり、縁に小さな鋸歯があります。日陰でも育つ丈夫な木で、公園や庭でよく見られます。その堅い木材は、耐久性が必要な建築や家具に利用され、特にお寺や神社の建築に用いられています。また、シラカシは土壌の安定にも寄与し、生態系を支える重要な役割を果たす頼もしい木です。

シラカシ

マテバシイ（馬刀葉椎）

マテバシイは、成長が早く、10メートル以上の高さに育つことがあります。この実は動物たちの食料となり、木自体も生態系にとって非常に重要です。また、堅い木材は家具や建材にも使われ、庭や公園などの景観を美しく保つためによく植えられます。マテバシイは日当たりの良い場所を好み、土壌の質も選ばず、どこにでも育ちやすい丈夫な木です。

マテバシイ

拾ってきたどんぐりの育て方はこちらの映像をご覧ください

今月のトピック

第２回　黒川どんぐり山植樹会に参加してきました

活動名：第２回　黒川どんぐり山植樹会
日時：１０／６（日）、７（月）
場所：黒川青少年野外活動センター
（川崎市麻生区）
参加者：２日間述べ人数　５２人
（未就学児7人、小学生13人、大人32人）
植樹区画　９区画 植栽樹種２２種６３本
（進和学園いのちの森づくり友の会基金よりより苗木を提供）

崩れた斜面にしがらみ棚をつくる

すべて現地調達の材料です

しがらみ棚に混植密植の植樹をする

黒川青少年活動センター内の小高い雑木林である「どんぐり山」は、ナラ枯れの影響で倒木の危険と、斜面が崩れ、根が露出してしまった場所もあり、昨年まで立入禁止となっていました。そのためどんぐり山の生態系を回復するため、植生工学士仲間の井上夫妻が「黒川どんぐり山植樹会」を企画しました。

現地の材料を使って「しがらみ棚」を作る工程や、空気や水の流れを考えながらの植樹活動は非常に参考になりました。

「空気も水も、根の菌糸同士、植物、微生物、昆虫、鳥、動物も栄養や食物連鎖を通して、色んな感情、情報を伝えあっていますね。様々な生命が活き活きすることが私達人間の幸せにも繋がっていると私は感じています。どんぐり山の活動を通して植樹の実践や学び合える事、有り難い限りです」（井上夫妻）

「しがらみ棚」とは、崩れた斜面や傾斜地で土壌の流出を防ぎ、植生を促進するための棚を作る工法です。この棚は、木材や石などの自然素材を使って構築されます。しがらみは、しっかりと固定されることで斜面を安定化し、植物の根が定着するのを助けます。棚を作ることで水の流れを制御し、土壌の浸食を防ぐことができます。自然環境との調和を図りながら人々が持続可能な形で土地を利用できる工法の一つです

立っているのがやっとの場所にポット苗を植える